

帰宅困難者を支援します

外出先で大規模地震が起きたら？

まずは、身の安全が確保できる場所へ避難します。帰宅経路の安全が確認できるまでは、「むやみに移動（帰宅）を開始しない」ことが大切です。

平素からの備え

安否確認手段について取り決めておくことや、帰宅経路の確認、非常食や歩きやすい靴など、徒歩帰宅の際に必要な物資を準備しましょう。

徒歩帰宅支援ステーション

徒歩で帰宅するときは、県と協定を結んだコンビニエンスストア、ガソリンスタンド、郵便局等の店舗で、「水道水」「トイレ」「店舗が知りえた災害情報」の提供支援が受けられます。店舗入り口の「徒歩帰宅支援ステーション」ステッカーが目印です。



徒歩帰宅支援ステーション
ステッカー

防災ボランティア

阪神・淡路大震災のように大きな災害がおきれば、ボランティアが活躍します。自主防災組織等は自らの町を守るため活動し、ボランティアは被災者支援のために全国から駆付けてきます。そのボランティアが十分に力を発揮するためには、ボランティアの熱意と被災者からのニーズを調整するボランティア・コーディネーターおよびボランティア同士の協力・連携が必要不可欠です。迷惑ボランティアにならないように、災害ボランティアセンターの情報を収集し、安全に注意して活動しましょう。